

学校便り 2月号

令和8年2月2日 発行
和歌山市立岡崎小学校

教 頭

校区に遺跡が！～約1750年前の岡崎～

岡崎小学校の校区（井辺・西・森小手穂など）は、「埋蔵文化財包蔵地（まいぞうぶんかざいほうぞううち）」に指定されています。一言でいうと、「地面の下に、昔の土器や住居跡などの遺跡が埋まっている可能性がある土地」のことです。和歌山市には、4世紀初め頃から7世紀中頃（古墳時代）に作られた「岩橋千塚（いわせせんづか）古墳群」があり、特別史跡「紀伊風土記の丘」として保存・活用されています。岡崎地区にある遺跡もその一つと言われ、特に井辺・森小手穂のあたりは、埴輪（はにわ）を焼く「窯（かま）」があった可能性が高い場所とされています。1987年の調査では残念ながら窯は見つかりませんでしたが、今回その再調査が行われました。

現場は小学校からほんの50メートルほど歩いた先。せっかくの機会なので、6年生と一緒に見学に行きました。住宅地の裏山を、地主さんのご好意で調査しているとのことです。行って本当にびっくりしました。足元に、まるで道端の石ころのように、無数の埴輪のかけらが転がっているのです。

発掘は非常に地道な作業です。埴輪を壊さないよう、重機はほとんど使わず、手作業で木や竹を切り、測量をしながら少しづつ掘り進めたそうです。

今回も、残念ながら窯そのものは確認できませんでしたが、家やうつわ、人物や馬の形をした埴輪や、まだ何の形なのかわからない埴輪のかけらたちが数多く出土しました。これらは今後、水洗や復元を行い、岩橋千塚古墳群の他の出土品と比較・検討される予定だそうです。

約1750年前、私たちがいるこの岡崎小学校の場所や、みなさんのおうちがある場所で、かつての人々がひたむきに日々を過ごしていた…。

当時の風景や人々の営みに思いをはせると、歴史のロマンを感じずにはいられません。



見つけた埴輪のかけら



埴輪が並べられた状態で見つかった様子